

Title	近世日本における「教育」と「教化」の概念史研究
Sub Title	A study on the history of the concept of "education" and "edification" in Tokugawa Japan
Author	山本, 正身(Yamamoto, Masami)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2018
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>日本教育史における「近世」と「近代」との連続・断絶の関係をめぐる議論の中で焦点とされてきたのは、そもそもの「教育」という言葉がいつ頃から普及し定着するようになったか、という問題であった。また、近年の教育思想史研究では明治以前には「教育」という言葉はほとんど使用されていなかったとする見解が主流をなしていた(田中智志編『<教育>の解読』世織書房, 1999年)。</p> <p>それに対し、本研究では、</p> <p>①「教育」という言葉はすでに17世紀より儒者の諸著書の中に現れていたが(伊藤仁斎『童子問』, 貝原益軒『慎思録』, 荻生徂徠『弁道』など), それらにはこの言葉の出典である『孟子』の「英才教育」という含意が与えられていた, ②18世紀に入ると「教育」という言葉が諸藩藩校の学規・学則の中に散見するようになるが(熊本藩時習館, 米沢藩興讓館など), それはこの言葉が「英才教育」よりもむしろ国家有用の「人材教育」として理解され出したことを示唆している, ③19世紀には幕府の寛政改革の影響によって激増する各藩藩校資料に「教育」という言葉が頻出するようになるが, それは「教育=国家有用の人材教育」という図式が広汎な定着を見たことを物語っていると同時に、</p> <p>この意味での「教育」が明治以後の「教育」理解に連なっている可能性がある, などの動向を描き出そうとした。現時点で完成稿を作成するには至っていないが、この動向の検証により、「教育」を「国家有用の人材教育」とする理解において、近世(18世紀以後の)と近代とは思想的に連続関係にある, との立論が成り立つはずである。</p> <p>なお、先行研究(前田勉『江戸教育思想史研究』思文閣出版, 2017年)によれば、「教育」が相手の自発的学習を尊重する営みであるのに対し、「教化」は相手の内発的意志に関係なくその人間を変化させようとする営みとされる。この先行学説に従えば、藩校の普及と学習者の増大は、「教育」を「教化」化させる契機となった可能性が示唆されるが、本研究ではこの点に関する論攷を展開するには到らなかった。これも今後の課題としたい。</p> <p>An argument about the relationship of "the continuation or the break" between "the pre-modern times" and "the modern times" in the history of Japanese education has been developed on the basis of the problem, that is, when the word "education" was appeared and established in Japanese pre-modern history.</p> <p>So far, the opinion that the word "education" was not used in pre-modern times was convincing. In contrast, in this study, I discussed that the word "education" was already used in the Edo era, and in particular, it became to understand that the word "education" was just meant "the talented person education for national development" from the 18th century.</p> <p>In this understanding, it would be said that the relationship between the pre-modern times and the modern times in Japanese education had been continued.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170048

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	文学部	職名	教授	補助額	200 (B) 千円
	氏名	山本 正身	氏名 (英語)	Masami Yamamoto		
研究課題 (日本語)						
近世日本における「教育」と「教化」の概念史研究						
研究課題 (英訳)						
A study on the history of the concept of "education" and "edification" in Tokugawa Japan						
1. 研究成果実績の概要						
<p>日本教育史における「近世」と「近代」との連続・断絶の関係をめぐる議論の中で焦点とされてきたのは、そもそもの「教育」という言葉がいつ頃から普及し定着するようになったか、という問題であった。また、近年の教育思想史研究では明治以前には「教育」という言葉はほとんど使用されていなかったとする見解が主流をなしていた(田中智志編『<教育>の解読』世織書房、1999年)。</p> <p>それに対し、本研究では、①「教育」という言葉はすでに17世紀より儒者の諸著書の中に現れていたが(伊藤仁斎『童子問』、貝原益軒『慎思録』、荻生徂徠『弁道』など)、それらにはこの言葉の出典である『孟子』の「英才教育」という含意が与えられていた、②18世紀に入ると「教育」という言葉が諸藩藩校の学規・学則の中に散見するようになるが(熊本藩時習館、米沢藩興讓館など)、それはこの言葉が「英才教育」よりもむしろ国家有用の「人材教育」として理解され出したことを示唆している、③19世紀には幕府の寛政改革の影響によって激増する各藩藩校資料に「教育」という言葉が頻出するようになるが、それは「教育＝国家有用の人材教育」という図式が広汎な定着を見たことを物語っていると同時に、この意味での「教育」が明治以後の「教育」理解に連なっている可能性がある、などの動向を描き出そうとした。現時点で完成稿を作成するには至っていないが、この動向の検証により、「教育」を「国家有用の人材教育」とする理解において、近世(18世紀以後の)と近代とは思想的に連続関係にある、との立論が成り立つはずである。</p> <p>なお、先行研究(前田勉『江戸教育思想史研究』思文閣出版、2017年)によれば、「教育」が相手の自発的学習を尊重する営みであるのに対し、「教化」は相手の内発的意志に関係なくその人間を変化させようとする営みとされる。この先行学説に従えば、藩校の普及と学習者の増大は、「教育」を「教化」化させる契機となった可能性が示唆されるが、本研究ではこの点に関する論放を展開するには到らなかった。これも今後の課題としたい。</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
<p>An argument about the relationship of "the continuation or the break" between "the pre-modern times" and "the modern times" in the history of Japanese education has been developed on the basis of the problem, that is, when the word "education" was appeared and established in Japanese pre-modern history.</p> <p>So far, the opinion that the word "education" was not used in pre-modern times was convincing. In contrast, in this study, I discussed that the word "education" was already used in the Edo era, and in particular, it became to understand that the word "education" was just meant "the talented person education for national development" from the 18th century.</p> <p>In this understanding, it would be said that the relationship between the pre-modern times and the modern times in Japanese education had been continued.</p>						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			